

14 番（小川義昭議員）

ぜひBCP取得に向けての啓発を積極的にPRしていただきますようお願いいたします。

続いては、6点目の質問として（仮称）白山市健康づくり推進条例の制定について提案いたします。

本市は、合併から2年が経過した平成19年3月に「心身ともに健やかに、心豊かに暮らせるまち・白山市」を基本目標とし、白山市健康プランを策定しています。その実現に向け、これまで市は特定健康診査、特定保健指導など様々な事業に取り組んでこられました。

さらに、平成30年3月には、将来を担う子供の健やかな成長を育み、働き盛り世代の生活習慣の改善を促し、高齢者の生きがいのある暮らしを支えるため、第2次白山市総合計画に掲げる「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」の実現に向け、第2次白山市健康プランを策定しています。

その上で、平成31年3月22日、人生100年時代に対応するため、元気で笑顔あふれる白山市を未来に引き継ぎ、持続可能なまちづくりを誓うこととして「健康都市 白山」を宣言しました。

昨年5月にはコロナの感染防止策や地域経済の支援に充てる基金、白山市新型コロナウイルス感染症対策基金を創設したほか、今年の1月会議では、クスリのアオキホールディングスの青木桂生会長らの寄附金を原資として、新たな基金、白山市文化創生・健康都市推進アオキ基金を創設したところであります。

本市が目指す健康長寿のまちづくりは、今も申し述べましたように、常に将来指針の重要な要素として各種施策において展開されてまいりました。

それぞれのライフステージに応じた体と心の健康は、教育・文化・産業・環境・都市基盤の整備といった幅広い施策の根幹に置かれ、白山市の従来取組は市民の健康増進に寄与し、健康寿命の延伸や健康格差の縮小を目指す上で極めて有意義であったと評価いたしたいと思います。

であるならば、こうした認識を自治体と市民が共有し、もう一歩前に踏み出してもいいのではないかと私は考えます。

具体的には、白山市と市民がともに健康長寿のまちづくりを推進する一助として（仮称）白山市健康づくり推進条例を制定し、かかる命題をお題目で終わらせないあかしとすべきではないでしょうか。

市民一人一人が健康への関心を高め、市民相互に自主的な健康行動の実践を促す機運づくりの契機とすべき大切な施策として、条例化による攻めの行動を求めたいと切に思うものであります。改めて、市長に御見解をお伺いします。

「健康で笑顔あふれる元気都市 白山」の実現に向け、（仮称）白山市健康づくり推進条例を制定すべきと思いますが、力強い前向きな答弁を御期待いたします。